第1班　初級Ⅰクラス実習報告

芦野華奈子　伊藤彩音
溝越彩佳　森岡舞

担当クラス

- クラスの人数：18人
- レベル：初級Ⅰ
- 国籍：中国（4人）、ベトナム（7人）、フィリピン（2人）、ナイジェリア（1人）、アメリカ（1人）、パキスタン（1人）、フィンランド（1人）、タイ（1人）
- 教科書：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』、『BASIC KANJI BOOK Ⅰ』
- 担当の先生：伊藤倫子先生
- 見学期間：9月4日～9月7日
- 実習期間：9月10日～9月21日

授業見学について

- クラスの学生数が多かったが、教師は学習者の声をよく拾い、授業に取り入れながら進めていた。発音練習では、学習者一人一人の声を聞き分け指導をしていた。
- 教師は日本語を実際の生活で使用することを目的とした学習を多く行っていた。学習者も教師の説明を聞くより、実際に会話するといった活動的な授業のほうが熱心に取り組んでいた。
- 教師は学生がわかること、興味があることを積極的に授業に取り入れていた。仙台ランゲージスクールに関すること、アルバイト、結婚、自分の国などの話題になると、学習者がすぐ「わかります」と言い、授業も大変盛り上がっていた。

教壇実習（漢字）について

<u>使用教材</u>

『BASIC KANJI BOOK Ⅰ』

13課　「広～痛」

教壇実習（漢字）について①

<u>使用教具</u>

- 絵カード（みんなの日本語付属のもの）
- 写真カード
- 日本地図
- レアリア（広告・水筒）
- その他：カレンダー，車，ビル複数
- 漢字カルタ（画用紙で製作）

教壇実習（漢字）について②

<u>上手くいった点/工夫した点</u>

- 説明や例を生徒が理解できるもので題材にする。（事前のリサーチ）
- 生徒の発話を大事にする。
- 書き＜発音の授業構成
- 教室活動（漢字かるた）

教壇実習（漢字）について③

<u>学習者からの質問</u>

- 「方」についての詳しい説明を求められた。
- 方法（どのように）という意味での「方」での理解をしていたため、新しく学ぶ「方向」の抽象的な意味が理解しにくかったようだ。

教壇実習（文法）について

使用教材

『みんなの日本語』

第17課　ない形、「～ないでください」

教壇実習（文法）について①

使用教材

- 『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』

上手くいった点

- 冷静に授業を進められた
- ロールプレイを授業の最初に見てもらったことで、学習者の目を引くことができた
- 説明だけでなく、実際に動いてもらうことで授業にメリハリが出た
- 学習者の反応を見ながら、説明を追加したり省略したりすることができた

教壇実習（文法）について②

<u>失敗した点</u>

- 絵カードで使用したイラストが分かりにくかった。
- プリントを書くときの指示がうまくできなかった。(おかわりプリント)
- 学習者の声を拾うことができない場面があった。
- 復習に時間を取りすぎでしまった。(時間配分のミス)

教壇実習（文法）について③

学習者からの質問

- 質問は出なかった。
- だがこちらから「わかりますか」と問いかけるなど、学習者の反応をしっかり見る必要があると思った。

感想

- 文法の授業は、説明より練習に時間を割くほうがいいと感じた。
- 担当する課によっては、言葉で説明するのが難しい文法もある。実習生だからこそ準備できる絵カードや表などを使い、補うことも大事だと思う。
- 堂々としていれば学習者は理解しようとしてくれる。自信を持つことが何より大切！！

第２班　初級Ⅰクラス実習報告

大久　紗葵　　小野寺　沙都美
佐々木　里菜　　髙橋　知恵

担当クラスの概要

- 実習期間　平成24年10月10日から23日
(見学10日～16日、教壇実習17日～23日)
- クラスレベル
初級Ⅰクラス
- 担任の先生
戸田和宏先生
- 使用教材
『みんなの日本語　初級Ⅰ本冊』
- 学生人数
10人(実習３日目までは８名で、後からベトナム人2名が増えた)
- 学生の出身国
ベトナム7名、スウェーデン3名

授業見学についての報告①

・学習者に発言させる機会が多く、反復練習や会話練習をさせるだけでなく、学習者からの質問や発言を取り入れることで授業の流れを作っていた。
・活動を多く取り入れた授業作りを意識しており、教室内だけでなく教室外での活動も積極的に行っていた。実際に使う場面を想定しての練習を行うことで、学習者に達成感が生まれることがわかった。

授業見学についての報告②

- 発音練習など単調になりそうなものにはゲーム性を加えることで学習者のモチベーションを上げ、積極的な授業参加を促していた。
- ゼロ初級のクラスで第一回目の授業から見学できたため、日本語をほとんど話せない状態からひらがなや挨拶の学習を経て、少しずつ語彙や文法を習得していく様子を見ることができた。これは自分たちが教壇に立っていなくても大変嬉しいものだった。

文字のクラスについての報告①

担当範囲

・先生から配布されたプリント

・特殊拍「っ」「ん」名詞テスト（前日の復習）

・長音名詞

「せんせい」「がくせい」「とけい」

「ふうとう」「れいぞうこ」「びよういん」「びょういん」

「そうじき」「ぼうし」「ひこうき」「がっこう」

「おじいさん」「おばあさん」「おとうさん」

「おかあさん」「おにいさん」「おとうと」「いもうと」

文字のクラスについての報告②

工夫した点

- 絵カードや文字カード、補助プリントを作成し学習者にとって分かりやすい授業を目指した。
- 長音名詞の発音と聞き取りが出来るように図を書くなどした。
- 手拍子や、ジェスチャーをして拍を意識させるような指導方法にした。

うまくいった点

- 特殊拍の促音と撥音の復習では拍を意識させるため手拍子をして発音指導を行うことができた。
- 長音名詞も手の動きや、ホワイトボードに図を書いて説明したため長音について指導することができた。

失敗した点

- 全体を意識するということができなかった。
- 学生の理解の理解度に応じて授業を進めることができなかった。
- 学生の発音の間違いなど、その場で気付くことができなかった。

学生からの質問

- 家系図のプリントに「おねえさん」が無かったので英語で聞かれた。

文法クラスについての報告

第二班　初級１クラス

実施日：10月17日　午後

担当範囲：『みんなの日本語　初級Ⅰ』

第３課　Ａ５・６

用意した教材・教具

絵カード・・・35枚

・品物　5枚　（内1枚は国旗）

・品物と値段　10枚

・品物と国名　10枚

・品物と値段と国名　10枚

数字カード・・・15枚

・0～10、00、000、0000、00000

文字カード・・・7枚

・？、えん、いくら、ひゃく、せん、まん、どこ

その他レアリア等

・チラシ

上手くいった点・失敗した点

上手くいった点

- 学習者への声掛け
- 見やすさを意識した教材
- 特に覚えてほしいことを繰り返し練習させた
- 易から難への流れ
- 時間調整用のミニゲーム
- 声の大きさ
- ほかの実習生の手助け

失敗した点

- 発音の区別，確認
- 学習者の「分かります」「大丈夫」を鵜呑みにした
- 一人の疑問を全員で確認
- 事前確認不足
- 未修語、難しい日本語を頻繁に使用した
- 学習者の日常生活を意識することを怠った

学習者からのコメント

- 「ワイン」「チラシ」を板書してほしい。

　学習者は文字で発音を確認したい。カタカナは未履修だがひらがなの横に書けば学習者にはわかる。

- スウェーデンにワインはない。

　「これはどこの〇〇ですか。」の導入で学習者から指摘された。

　学習者の母国に関する予備知識があるといい。

- 桁の大きい数字が読めない。

　十万、百万など桁が大きい数は学習者には難しい。学習者が日常生活の中でよく使う大きさの金額を意識する。紙幣や硬貨のレアリアを用いるとより分かりやすくなった。

おもいで